

小学校

- ☒ 不登校傾向にある児童生徒への支援
- ☐ 不登校になり始めた児童生徒への支援
- ☐ 長期間不登校の児童生徒への支援

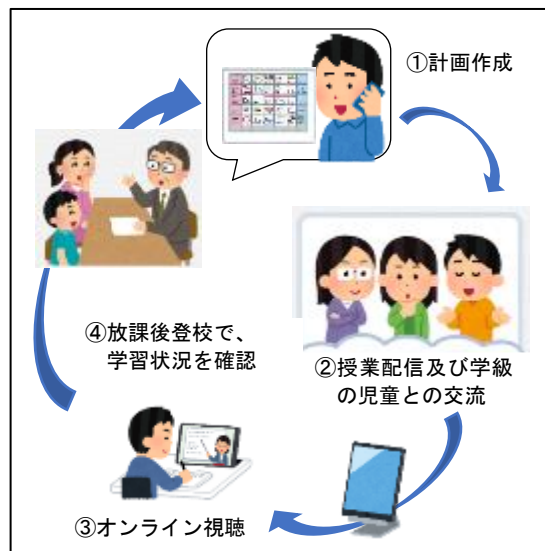
Web会議システムを活用した放課後登校児童への学習支援

○ 取組の進め方

- ① 学級担任は保護者と相談して学習支援の方向性について共通理解を図るとともに、授業配信の計画を作成
- ② 学級担任は教室の前方及び後方にカメラ設置
- ③ 児童は自宅で授業を視聴し、本人の意向を踏まえて話合いに参加
- ④ 学級担任は児童が週2回程度、放課後に登校した際に、児童の学習状況を確認。また、保護者と家庭における学習状況について情報共有

○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・ 授業配信の計画を作成する際には、児童の興味の高い教科を中心に作成
- ・ 1人1台端末を活用した家庭学習について、児童の興味・関心に応じて提示
- ・ 学級の児童と交流する機会を確保するため、本人の意向を踏まえてWeb会議システムを休み時間や放課後にも接続



- ☒ 不登校傾向にある児童生徒への支援
- ☒ 不登校になり始めた児童生徒への支援
- ☐ 長期間不登校の児童生徒への支援

児童の状況に応じたオンライン授業の実施

○ 取組の進め方

- ① 全学級でオンライン授業に向けた環境整備（カメラの設置等）
- ② 各学級の学級通信を通じて不登校児童支援のためのオンライン授業の実施を全家庭に周知
- ③ 学級担任と保護者が協議し、オンライン授業の利用の有無や当該児童の実態に応じて運用方法について検討



【運用方法の例】

- ・ 児童同士の話し合いなど双方向性のある授業（学級担任と1対1の授業含む）
- ・ 授業配信のみ（当該児童のカメラのオン・オフは協議で決定）
- ・ 休み時間の配信（児童同士の交流あり）

○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・ 年度始めに、教務部及び生徒指導部が中心となり、オンライン授業について全教職員で共通理解する機会を創出
- ・ オンライン授業促進に向け、Google Classroomで時間割や授業で使用するワークシートなど、多くの情報を共有
- ・ 学級担任と保護者が定期的に協議し、その都度運用方法を改善

- ☒不登校傾向にある児童生徒への支援
- ☒不登校になり始めた児童生徒への支援
- ☒長期間不登校の児童生徒への支援

ICTを活用した教育支援センターとの教育相談

○ 取組の進め方

- ①教育支援センターとの教育相談の方法として、来所、家庭訪問、Web 会議システム、メールがあることを相談者に提示
※以下、メール相談の場合を示す
- ②相談者は、教育支援センターが用意した相談専用のメールアドレスに相談を送付
- ③教育支援センターは、相談者にメールを返信
- ④相談者の了承が得られた場合は、相談内容を学校等へ報告

○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・教育支援センターは、相談者にメールを返信する際、担当者、SC、SSW等と内容を協議した上で送付
- ・相談内容の学校等への報告に当たっては、相談者及び保護者に報告の可否を確認し、信頼関係を構築及び維持
- ・相談者とのつながりが途切れないよう、相談方法の意向を適宜把握することで、柔軟に相談体制を構築



- ☒不登校傾向にある児童生徒への支援
- ☐不登校になり始めた児童生徒への支援
- ☒長期間不登校の児童生徒への支援

Web会議システムを活用した授業配信・話し合い活動①

○ 取組の進め方

- ①授業者は、Web会議システムによる外部講師の講話を位置付けた授業計画を作成
- ②授業者は、学級担任と連携し、児童及び保護者と相談して授業配信の計画を作成
- ③児童は自宅で授業を視聴し、本人の意向を踏まえてスクールタクトを活用した話し合いに参加
- ④授業後、学級担任は児童に自分の考えをまとめたスライドを提出させるとともに、家庭訪問等で学習状況を確認



○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・特別な支援の必要な児童の教育的ニーズに応じた、きめ細かな支援
- ・児童の社会的自立を目指した多様な支援

- ☒不登校傾向にある児童生徒への支援
- ☐不登校になり始めた児童生徒への支援
- ☒長期間不登校の児童生徒への支援

Web会議システムを活用した授業配信・話し合い活動②

○ 取組の進め方

- ①学級担任は、保護者と相談して授業配信の計画を作成
- ②学級担任は、教室内に端末を設置
- ③学級担任は、授業開始前に授業の流れを児童と確認
- ④学級担任は、家庭訪問で学習状況を確認し評価

○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・児童が、授業の様子を視聴するとともに、双方向によるグループでの話し合いに参加
- ・全体交流の場面では、同じグループの児童が発表者の方へカメラを向け、教室で学習する児童と同じ視線になるようサポート
- ・教室内の児童に対し、自宅で参加する児童への配慮を意識させることにより、相手意識をもって交流できるよう指導



- ☐不登校傾向にある児童生徒への支援
- ☒不登校になり始めた児童生徒への支援
- ☒長期間不登校の児童生徒への支援

1人1台端末の日常的な活用による「学びを止めない」「心を近づける」不登校支援

○ 取組の進め方

- ①不登校の児童と保護者の要望を、学校で検討し、学習及び支援の計画を作成
- ②学級担任は、不登校児童と1人1台端末のクラウドサービスを活用し、宿題を送受信
- ③学級担任は、不登校児童が、家庭で取り組んだ学習内容を把握し、取組が不十分と考えられる内容について、Web会議システムを活用し、個に応じた指導を実施
- ④学級担任は、不登校児童の意向を踏まえ、Web会議システムを活用し、オンライン授業配信及び授業中の話し合い活動への参加を促す声かけを実施

○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・学級担任が、不登校児童の家庭での学習状況を、1人1台端末のクラウドサービスや、学習支援ソフトを活用し、リアルタイムで把握することで、定着が十分でない学習内容に対し、素早く対応することができる学習支援体制を構築
- ・Web会議システムを活用したオンライン授業配信の際、休み時間も接続を維持し、クラスメイトと交流する機会を設定したり、オンラインで個別の学習指導を行う際、児童の生活の状況把握や、登校に向けた不安を気軽に相談することができる機会を設定したりすることによる相談体制を構築



- ☐不登校傾向にある児童生徒への支援
- ☒不登校になり始めた児童生徒への支援
- ☒長期間不登校の児童生徒への支援

Web会議システムを活用した授業配信①

○ 取組の進め方

- ①学級担任は、不登校傾向にある児童や保護者と相談し、授業配信の計画を作成
- ②学級担任は、教室にカメラを設置し、各教科等の授業や課題を配信
- ③児童は、授業を視聴し課題に沿って学習、別室に登校した場合は、別室から授業を視聴し課題に沿って学習
- ④学級担任は、児童の課題の取組状況を確認し、端末を活用して学習についての相談を実施



○ 効果的な取組とするためのポイント

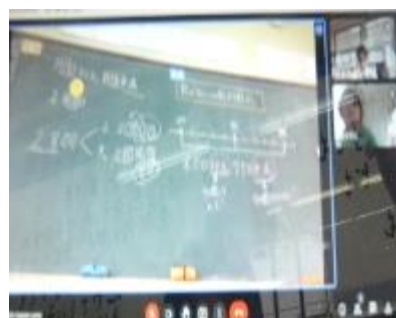
- ・**実技教科**においても、**可能な限り同一の活動**ができるよう配慮
- ・**授業時間以外も**クラスメイトと交流ができるよう、**Web会議システムを接続**

- ☐不登校傾向にある児童生徒への支援
- ☒不登校になり始めた児童生徒への支援
- ☒長期間不登校の児童生徒への支援

Web会議システムを活用した授業配信②

○ 取組の進め方

- ①不登校担当教諭は、児童及び保護者と相談して授業配信等の計画を作成（現在、算数科、外国語科、図画工作科で実施）
- ②学級担任は、黒板前にカメラを設置
- ③当該児童は自宅で授業を視聴
※児童の意向を踏まえて、児童側のカメラをオフに設定
- ④学級担任は、家庭訪問等で学習状況の確認や補充教材（プリント）等を配付



○ 効果的な取組とするためのポイント

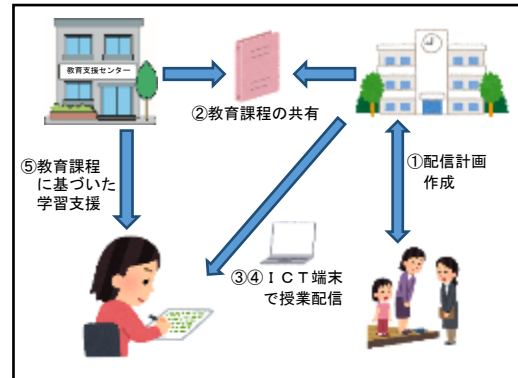
- ・授業配信の計画を作成する際には、児童が**意欲的に取り組める教科を中心に作成**するとともに、**徐々に配信する教科を増やしていく**ことで、児童の抵抗感を軽減しながら取り組むことができるよう配慮
- ・ICT端末の活用により、授業中の教材配付及び**学習状況の確認を随時実施**
- ・担当教諭との交流や会話を通したコミュニケーションを図ったり、適度な運動を行ったりすることを目的とした**別室登校を、週に1回程度実施**
- ・児童の様子や対応状況について**スクールカウンセラーと相談**しながら、当該児童の段階的な目標設定をするなど、関係機関と連携を図った取組

- ☐不登校傾向にある児童生徒への支援
☒不登校になり始めた児童生徒への支援
☒長期間不登校の児童生徒への支援

教育支援センターと連携した学習支援

○ 取組の進め方

- ①学級担任は児童及び保護者と相談し、授業配信の計画を作成
- ②児童は教育支援センターに通所し、教育支援センター職員とともに登校、教育課程を共有
- ③学級担任は教室の後方に、カメラ付きPCを設置
- ④児童は別室で教育支援センターの職員とともに授業を視聴
- ⑤児童が学校に登校できないときは、学校の授業を基に、教育支援センター職員が学習を支援



○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・教育支援センター職員と登校することにより、登校に対する児童の心理的負担を軽減
- ・視聴する授業については、児童の興味が高い教科から始め、徐々に視聴する授業を増加
- ・学校と教育支援センターが連携し、教育課程に基づいた学習支援を実施
- ・授業視聴後、Web会議システムによるクラスメイトとの交流の機会を設定

- ☐不登校傾向にある児童生徒への支援
☐不登校になり始めた児童生徒への支援
☒長期間不登校の児童生徒への支援

ロイロノート・スクールを活用した学習内容や進度の連絡

○ 取組の進め方

- ①学級担任とICT担当教諭は、保護者及び児童と相談の上、ロイロノート・スクールの活用について保護者及び児童と練習
- ②学級担任は、学級での出来事、学習状況及び家庭で取り組む課題等についてロイロノート・スクールを通じて、児童に送付
- ③学級担任は、児童とのやり取りを通じて、学習への興味関心に基づいた登校意欲や学習意欲を涵養
- ④学級担任は、ロイロノート・スクールと電話を併用して、保護者と児童の学習状況、興味関心のある事柄について確認し、学校での保護者同伴による体験の提案及び児童との相談を実施



○ 効果的な取組とするためのポイント

- ・週末の連絡内容は、児童の興味関心に基づいて、返信や相互のやり取りが楽しめるように工夫
- ・保護者との連携に基づいたやり取りを通じて、児童の興味関心の的確な把握による無理のない登校